

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

講道館 鏡開式



乱取稽古

合気会 鏡開き式



推薦昇段者への証書授与式

武道の隆盛と発展を

新年に誓う



大將軍・弘友和夫日本武道館理事による鏡開き

昭和100年記念 令和8年鏡開き式・武道始めが、成人の日の1月12日に日本武道館で開催された。古式に則った鎧着初め・鏡開き式をはじめ、武道模範演武、武道始めが行われ、会場には関係者や武道愛好家ら2224名が来場した。観客は煌びやかな鎧を纏った大將軍の鏡開きや武道9種目の模範演武を観覧し、武道始めでは600名を超える老若男女の稽古会参加者が汗を流した。

昭和100年記念

令和8年

鏡開き式・武道始め



主催＝日本武道館 協賛＝日本武道協議会
協力＝日本甲冑武具研究保存会、高津装飾美術



来賓祝辞
浅野敦行スポーツ庁次長

主催者挨拶
高村正彦日本武道館会長

昭和100年記念 令和8年 鏡開き式・武道始め
-鏡開き・開着初め・模範演武・武道始め 各道稽古会・武道功労者及び武道優良団体表彰



武道8種目が一斉に稽古する「武道始め」

日本武道館の新春恒例行事である「鏡開き式・武道始め」は、日本武道館開館翌年の昭和40年から開催されており、改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響などによる4回の中止を除き、本年まで継続して行われている。昭和から満100年となる本年の鏡開き式・武道始めは「昭和100年記念」を冠して開催された。

本行事は、武道人の修行始めであるとともに、武道の隆盛と発展を期す目的で行われている。開会式の主

催者挨拶では高村正彦日本武道館会長が「武道関係者の皆様と一致団結して武道振興事業に今まで以上に力を尽くしてまいります」と述べ、来賓祝辞では浅野敦行スポーツ庁次長が「年頭を飾るこの行事が、今年一年の我が国における武道振興の大きな弾みになることを心より願っております」と述べ、武道のさらなる発展を祈念した。

開会式終了後には、日本武道協議会の令和7年度武道功労者・武道優良団体表彰式が行われ、功労者10名および優良団体9団体が表彰を受けた。

本年の開着初め・鏡開き式では、

大將軍を友和夫日本武道館理事、副將軍を永谷喜一郎全日本弓道連盟会長と分藤秀明日本甲冑武具研究保存会会員が務めた。鏡開き式では、大將軍が木槌で鏡餅を勢よく開くと、会場からは大きな拍手が起こった。その後、大將軍、副將軍が兜をかぶり、「えい！ えい！」という！と鬨をあげ、全軍出陣。勇壮な音楽が流れる中、55名の鎧武者らが会場を練り歩いた。

模範演武では、現代武道9種目の演武が行われた。各武道いずれも日本を代表する演武者らが出場し、玄妙な技の数々を披露。観客は一流の演武に見入った。

その後に行われた武道始めでは、老若男女の武道家が大道場いっぱいに広がり、8種目の武道が一斉に稽古会を行った。太鼓の合図で稽古が開始すると、たちまち大道場は竹刀で打ち込む音や畳を叩く音、子どもたちの元気な気合であふれた。40分

間の稽古が終了すると、参加者らは心地よい汗を拭いながら和氣調々と記念撮影を行ったり武道談義に花を咲かせたりしていた。

鎧着初め・鏡開き式



写真1 侍大将が着到状を読み上げる

●鎧着初め・鏡開き式の由来と行程
本行事で行われる鎧着初め・鏡開き式は、12世紀頃(平安〜鎌倉時代)の武家の男子が元服(成人式)の際に初めて鎧を着る「鎧着初式」に由来する。

初めに前軍、後軍の侍大将が、中



写真2 三献の儀。陪膳所役が大将軍に酒を注(つ)ぐ

軍に座する大将軍に着到状を読み上げ全軍到着を報告する(写真1)。続いて行われる三献の儀(出陣、元服などに際して当事者が酒を飲む儀式)では、大将軍が打ち、鮑、勝栗、昆布を肴に酒を飲む(写真2)。肴はいずれも験を担ぐ縁起物で、打ち



写真3 誓いの詞を神前で奉読する

鮑は「打つ」、勝栗は「勝つ」、昆布は「喜ぶ」を連想させるものである。儀式を終えると大将軍は神前に進み、誓いの詞を奉読する(写真3)。その後、大将軍は会場中央の鏡餅の前に進み、鏡開きを行う(6ページ写真)。正月に神前に飾られる鏡餅を吉日に撤去する方法として、砕いて食することを「鏡開き」と言い、刃物で餅を切ることは切腹を連想させるため、木槌で開くのが縁起が良いとされた。本行事では鏡餅とともに



写真4 副将軍が酒樽を開く

に2名の副将軍が酒樽を開いた(写真4)。最後に出陣式が行われる。鏡開きから帰陣した大将軍、副将軍が兜を装着し、大将軍が右手に扇を開いて「えい! えい!」と言うと家来一同が「おう!」と応じる(写真5)。最後に全軍が会場を左回りに行進し(写真6)、鎧着初め・鏡開き式は幕を閉じる。



写真5 大将軍の首頭で全軍が関をあげる



写真6 全軍での行進

● 大将軍コメント II
弘友和夫（日本武道館理事）



「リハーサルから緊張していたのですが、本番では気を引き締めて頑張りました。」

た。鏡開きで餅を開いた瞬間は、しっかりと手応えがありとても気持ち良かったです。今、世界は分断や差別、戦争が横行していますが、武は本来は「戈を止める」と書きます。そういった武道精神が世界に広まれば平和な世界になるため、現在進んでいる武道の無形文化遺産登録に向けた活動が重要になってくるのだと思います」

● 副将軍コメント II

永谷喜一郎（全日本弓道連盟会長）



「甲冑を着て会場を歩いていると、本当に武士になったような感覚になりました。」

た。（昨年7月に全日本弓道連盟会長に就任して）これほど大きい組織をまとめていくというのは覚悟がいることだと思っています。弓道の精神性と競技性の融合において、どの辺にバランスを置くかということを他の武道やスポーツ連盟などを参考に多角的に検証していきたいです」

模範演武



模範演武挨拶
川端達夫日本武道館理事長





【演武者一覧】

▼柔道 菅麗子 (四段)、中島 恵 (四段) ▼剣道 山崎明正 (範士八段) ▼弓道 小越智就 (錬士六段、貝谷佑一 (錬士六段)、茶山礼宜 (錬士六段) ▼相撲 外田守 (八段)、上田剛毅 (参段)、安藤珠璃 (式段)、川口正太郎 (式段)、白田哲朗 (参段)

▼空手道 小林美紗 (式段)、岸田羽未 (式段)、西巻紅美 (式段) ▼合気道 入江嘉信 (七段位)、桂田英路 (七段位)、鈴木俊雄 (六段位)、中村仁美 (四段)、有馬隼人 (四段)、深浦徹也 (参段)、アレクシ・セシナス (参段)、野中力樹 (式段) ▼少林寺拳法 谷聡士 (大拳士六段、中井弘佑 (正拳士五段、成海滯 (少拳士二段)、東蓮翔 (少拳士参段、近江謙信 (参段)、後藤美羽 (少拳士参段)、荏原碧 (少拳士参段、壽浅瑠称 (少拳士参段、金丸美結 (式段)、小嶋智希 (参段)、平野悠伸 (参段) ▼なぎなた 木本佐知子 (教士)、関祐介 (教士)、吉井和代 (教士)、中島由香里 (錬士)、和田うらら (五段)、北希織 (五段) ▼銃剣道 小倉弘之 (教士七段)、佐藤岳 (教士七段)、岩崎成希 (五段)、酒井玲 (五段)、森川友紀子 (五段)、今澤美紗 (五段)



武道始め



柔道

剣道





相撲



空手道



合気道

少林寺拳法



なぎなた



銃剣道





column 昭和40年に第1回の鏡開き式が開催



昭和40年鏡開き式。大將軍を務める赤城宗徳氏（左から2人目）

日本武道館が開館した翌年の昭和40年1月15日、日本武道館で第1回の鏡開き式が開催された。会報誌「武道」第23号（昭和40年2月1日発行）によれば、当時「鎧着初め」は「具足開き」という名称で、「大將軍・副將軍」も「大将・副将」と言う呼称であった。また、当初は武道始めは行われておらず、都内の小中学生を招き「おしるこ会」を行っていた。

【武道始め参加団体】
 ▼柔道 田無警察署少年柔道部、修徳柔道クラブ、正道館葛谷道場、調布市柔道連盟、本所警察署少年柔道、日本武道館武道学園▼剣道 北の丸剣友会、花畑剣友会、万世剣友会、品川平塚剣友会、平井剣友会、八武崎剣友会、清和剣友会、志村少年剣友会、お茶の水剣友会、江戸川剣友会、滝六剣道クラブ、日本武道館武道学園▼相撲

立川練成館▼空手道 日本空手道拳志会、白水修養会、教空会空手道場、高木道場、蒼鷹会空手教室、日本武道館武道学園▼合気道 公益財団法人合気会、日本武道館武道学園▼少林寺拳法 一般財団法人少林寺拳法連盟、日本武道館武道学園▼なぎなた 公益財団法人全日本なぎなた連盟、日本武道館武道学園▼銃剣道 公益社団法人全日本銃剣道連盟

「武道功勞章受章に寄せて」(27ページ～)では武道功勞者の喜びの声を掲載しております

■ 武道功勞者・武道優良団体表彰式



- | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|--------------------|----------------------|---------------------|----------------------------|----------------------|
| ▼柔道 遠藤 純男 (秋田県) ※表彰式は代理 | ▼柔道 道 太田 忠徳 (東京都) | ▼弓道 道 窪田 史郎 (東京都) | ▼相撲 撲 木崎孝之助 (東京都) | ▼空手道 道 前田 利明 (東京都) | ▼合気道 道 杉田 憲司 (三重県) | ▼少林寺拳法 道 濱田 宏行 (愛媛県) | ▼なぎなた 道 田中美智代 (大阪府) | ▼銃剣道 道 吉田 元明 (宮城県) ※表彰式は代理 | ▼日本武道館 道 弘友 和夫 (福岡県) |
| 武道優良団体 | | | | | | | | | |
| ▼柔道 道 学校法人桐蔭学園 | ▼剣道 道 一般社団法人静岡県剣道連盟「養浩館」 | ▼弓道 道 奈良市弓道協会 | ▼相撲 撲 学校法人東洋大学相撲部 | ▼空手道 道 全日本空手道連盟 北海道地区協議会 | ▼合気道 道 鹿児島県合気道連盟 | ▼少林寺拳法 道 神奈川県少林寺拳法連盟 | ▼なぎなた 道 滋賀県なぎなた連盟 | ▼銃剣道 道 佐賀県立佐賀農業高等学校 | |

昭和100年記念第49回日本古武道演武大会

古武道の「技と心」で
記念大会を彩る



篠寄浩之
日本武道館振興部長
日本古武道協会事務局長代行



片岡正徳
日本武道館常任理事・事務局長
日本古武道協会常任理事



高村正彦
日本武道館会長
日本古武道協会会長



古武道功勞者表彰
(左から) 松本秀邦氏、高村正彦会長、坂上節明氏



真剣な眼差(まなざ)して演武をみる観衆

昭和100年記念第49回日本古武道演武大会(主催)日本武道館・日本古武道協会)が2月1日、日本武道館で開催された。会場には、2000名を超える観客が詰めかけた。

大会には、全国に根付いた古武道流派36団体が出場し、技を披露した。

開会式では片岡正徳日本武道館常任理事・事務局長・日本古武道協会常任理事が開会宣言を行い、次に国歌斉唱へ。

続いて、主催者を代表して高村正彦日本武道館会長・日本古武道協会会長が「昭和100年記念第49回日本古武道演武大会を多くの皆様をお迎えして開催できますことを大変嬉しく思います。日本武道館は、武道の価値について国内外を問わず理解促進を図るため、日本の伝統文化である『武道』の無形文化遺産登録に向けた取り組みを進めることにいたしました。今後は無形文化遺産登録に向けて『武道』の周知を徹底してまいりたいと思います」と挨拶を述べた。

祝電披露では、松本洋平文部科学大臣、山谷えり子参議院議員・日本武道館常任理事の祝電が披露された。

開会式に続いて、古武道功勞者表彰式に移り、貫心流居合術・松本秀邦宗家、糸洲流空手・坂上節明四世宗家の2名が受章し、高村会長から賞状とメダルが授与された。

演武は2部制で行われ、第1部は小笠原流弓馬術の演武で始まった。続いて、功勞者表彰を終えたばかりの貫心流居合術の松本宗家が演武を行った。演武後、松本宗家は「門下生の演武は練習の成果が発揮されていて良かったです」と語った。

第2部は、糸洲流空手・坂上宗家の演武から始まった。古武道功勞章を受章した坂上宗家は演武後、「受章に恥じないように頑張って演武をしました。国内外を問わずグローバルに糸洲流空手を発信していきたいです」と述べた。

本大会の締めくくりは森重流砲術の演武。張り詰めた空気の中、発射音が会場に響き渡ると、観客からざわめきが起こり感嘆の声が漏れた。演武が終わると演武者に大きな拍手が送られ、篠寄浩之日本武道館振興部長・日本古武道協会事務局長代行が閉会宣言を行い全日程が終了した。

古武道は脈々と継承されてきた



①小笠原流弓馬術



②貫心流居合術



③澁川一流柔術



④兵法三天一流剣術



⑤沖縄剛柔流武術



⑥示現流兵法剣術

我が国固有の貴重な文化財



⑦楊心流薙刀術



⑧本體楊心流柔術



⑨円心流居合据物斬剣法



⑩諸賞流和



⑪肥後古流長刀



⑫竹内流柔術 腰廻小具足



⑬佐分利流槍術



⑭初實剣理方一流甲冑抜刀術

次の百年に向けて



⑮ 関口新心流柔術



⑯ 竹生島流棒術



⑰ 溝口派一刀流剣術



⑱ 三刀神影流鎖鎌術



⑳ 心形刀流剣術



㉑ 琉球王家秘伝本部御殿手

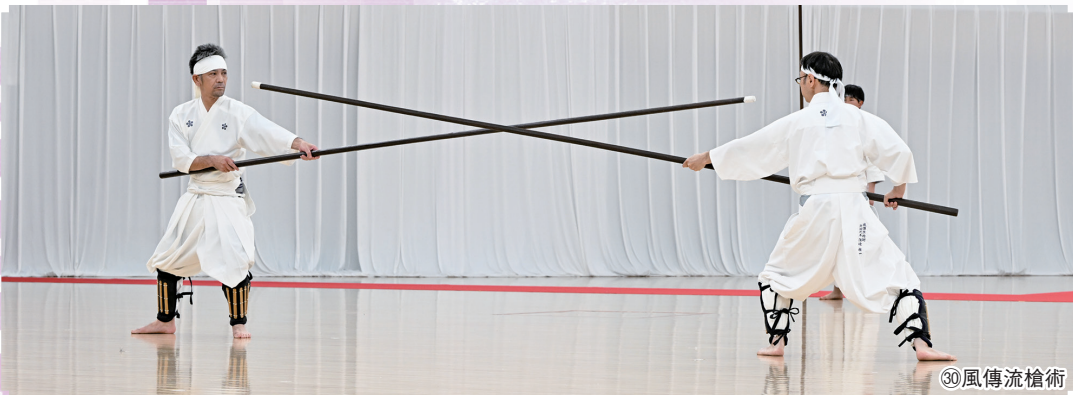


㉒ 柳生心眼流甲冑兵法



㉓ 伯耆流居合術

歴史と伝統が受け継がれていく



磨き抜かれた「一発必中」の技



出場流派・演武者一覽（演武順）

- ① 小笠原流弓馬術
小笠原清基、鎌形佐知夫、吉田昌仲、佐藤昌二、飯島陽一、玉川智、吉田亜未、鎌形雅子、宇田川照子、星野真理子
- ② 貫心流居合術
松本秀邦、守山健三、重吉伸一、渡邊孝敏、安食敬太
- ③ 澁川一流柔術
森本邦生、内住信之、堂元慎介、鈴木厚史、松田淳至、原田淑子
- ④ 兵法二天一流劍術
加治屋孝則、月森慎悟、中村明
- ⑤ 沖繩剛柔流武術
寺内一男、ジョセフ・タイト、森友雄斗、森友端貴
- ⑥ 示現流兵法劍術
東郷重賢、白坂耕一、有村博康、藤村亨、松窪光裕、高橋幸司、南秀一、市坪栄司、下津浩一、徳永重臣、塚本嘉洋、デュロン・アンリ、坂口俊太郎、アレキサンダーブラッドショ、築地克秀
- ⑦ 楊心流雜刀術
小山宜子、内藤真由美、國定梨奈、川原陽子、杉山仁実、福本紗良
- ⑧ 本體楊心流柔術
- ⑨ 円心流居合拵物斬劍法
高槻幸雄、徳山和彦、北野光一、桐山衣代、川岸正三郎、小畑慶幸
- ⑩ 諸賞流和
佐藤智之、山本忠博、宮原和茉、北山恵一、高橋利昌
- ⑪ 肥後古流長刀
平田真由美、紫垣美恵、廣田直人、坂口貴子、上田シズ子、砂川大丸
- ⑫ 竹内流柔術 腰廻小具足
竹内秀将、竹内勢至、竹内智隆
- ⑬ 佐分利流槍術
前原一教、北村賢一
- ⑭ 初實剣理方一流甲冑拔刀術
神崎勝、坂本圭、神崎勝馬、山本孝之
- ⑮ 関口新心流柔術
関口正太郎、山中聡、海老塚明、藤井陽子、北口隆、福岡雅己
- ⑯ 竹生島流棒術
松浦寛澄、松浦利英、橋口秀雄、村上和紀、栗山晃、迎俊明、石川裕章、ミヒヤエル・ラインハート
- ⑰ 溝口派一刀流劍術
- ⑱ 糸洲流空手
坂上節明、楠原清誌、加藤淳也、小田歩
- ⑲ 心形刀流劍術
小林強、加藤尚大、原謙一、振角卓哉、今西貴久、中西卓男、野仲治行
- ⑳ 琉球王家秘伝本部御殿手
本部朝行、新崎文子、中宮誠、本部直樹、加藤慎一、片山修、本部朝豊、本部朝陽、川田竜也、高橋健一郎、下地修、竹之内満、大岩浩章、本村頼重、勝沼悠、島海真、上原健
- ㉑ 柳生心眼流甲冑兵法
星國雄、古澤伸一、浅野篤、伊藤正人
- ㉒ 伯耆流居合術
大窪敏明、井上優一郎、ブラッドリ、ラスコム、大田光俊
- ㉓ 気楽流柔術
飯島雅史、飯島幸、川島輝之、大塚良太郎、反町明大
- ㉔ 柳生新陰流兵法劍術
柳生耕一、敬信、渡辺清和、高山潤一、鈴木泰充、星川宣禎、柴田幸芳
- ㉕ 根岸流手裏劍術
早坂義文、池永泰雄、パーパー出人、伊藤貴徳、土田和行、渡辺浩
- ㉖ 天神真楊流柔術
- ㉗ 無比無敵流杖術
根本憲一、唯之、谷啓一、村木浩治、沢幡伸男、加瀬大輔、小國英智
- ㉘ 風傳流槍術
渡邊桂一、妻夫木亮、渡邊開
- ㉙ 北辰一刀流劍術
吉田信二、田中栄治
- ㉚ 大東流合気柔術
近藤昌之、白山秀透、河野純一、滝口太士、味噌功磨、藤原雅樹、香山由紀子、Aleksiev Roman
- ㉛ 鞍馬流劍術
柴田章雄、柴田雄登
- ㉜ 田宮流居合術
妻木達夫、小野信義、石川定新也、吉池映治、山田千代和、三宅文正、森木利彦、飯塚一明樹、高原順一
- ㉝ 天然理心流劍術
平井正人、時田由記、常田貞行、小林恵子、須田英宏、白木正美
- ㉞ 森重流砲術
青木孝、角替進、齊藤一博、片山直巳、市川恵一、佐野翔平、小林透、芦川正彦

（以上36流派、敬称略）

講道館 鏡開式

国内外でますますの柔道の発展を



年頭挨拶を述べる
上村春樹講道館長

講道館の鏡開式が1月11日、寛仁親王妃信子殿下のご臨席を賜り、東京都文京区の講道館大道場で行われた。式には国内外から多くの柔道関係者が参加した。

式は午前10時に開会し、初めに小俣幸嗣八段が講道館員代表祝詞を述べた。

次に、上村春樹講道館長が年頭挨拶で「この鏡開式は、新年を祝い柔道の発展と会員や修行者の健康・発展を願うものであります。今回もたくさんの方々にご参加いただきました。私たちは先人が築いてきた柔道をこれからも発展させていかなければなりません。そのためには嘉納治

五郎師範の遺訓を胸に、私たちも修行に励み、そして国内外の柔道の普及、後世に柔道を正しく伝えていく必要があります。ぜひとも皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思います」と述べた。

その後、投の形を皮切りに、7種の形の演武が披露された。形の演武終了後は、全日本強化選手・コーチとの乱取稽古が少年部・成年部に分けて実施され、各部4名の強化選手と参加者が和やかな雰囲気の中、ともに汗を流した。

昇段発表証書授与では、上村館長が各段位昇段者の代表に証書を授与。最後に、鳥居吉二八段の万歳三唱で式は終了した。



■形演武者

- ◇投の形Ⅱ取・射手矢弦太五段、受・岩永憲門五段
- ◇固の形Ⅱ取・原田新一八段、受・南保徳双七段
- ◇極の形Ⅱ取・川瀬孝司五段、受・小笠智也五段
- ◇柔の形Ⅱ取・手島奈美女子六段、受・齋藤志織女子五段
- ◇講道館護身術Ⅱ取・向井幹博八段、受・桐生習作六段
- ◇五の形Ⅱ取・大島修次八段、受・福地賢志郎七段
- ◇古式の形Ⅱ取・道場良久八段、受・眞喜志慶治八段



形の演武「投の形」



鳥居八段による万歳三唱

合気会 鏡開き式

これまで以上の合気道の飛躍を祈念



年頭挨拶を述べる
植芝守中央合気道道主



植芝道主の奉納演武



植芝本部道場長の奉納演武

合気会の鏡開き式は1月11日、東京都新宿区の本部道場で開催された。国内外から合気道関係者が集結し、新年を祝った。
式は午後2時に開会。初めに植芝守中央合気道道主が年頭の挨拶に立ち、「鏡開き式に大勢の皆さまにお越しいただき開催できることを大変嬉しく思います。開祖・植芝盛平翁が昭和6年にこの地に合気道の専門道場を建てられてから今年で95年の歳月がたっています。この歩みの中

でこれまでさまざまな紆余曲折がありました。それら乗り越えて今も世界の合気道の中心となっています。これからもこの歩みは続いていきます。

今年（うま）は午年です。馬は疾風のごとく駆けるといふことから飛躍の年と呼ばれています。本年は今まで以上にさらなる飛躍を願っています。そのため私たちは日々の稽古を大切にしながらはなりません。皆さまとともに研鑽（けんけん）を積み、駆け抜けてまいりたいと思います」と述べた。次に山谷えり子参議院議員と山田美樹前衆議院議員（当時）が来賓祝辞を述べた。

続いて植芝道主と植芝充央（みつひら）本部道場長による奉納演武が披露された。奉納演武終了後、推薦昇段者の発表と証書授与式が行われ、植芝道主より昇段者へ証書が授与された。

その後、恒例の直会（なほらい）が開催。直会では多田宏本部長が挨拶した後、赤沼二己男合気会理事が乾杯を行った。参加者たちは温かいお汁粉と祝い酒とともに、合気道談義に花を咲かせ、新春の祝いの場を大いに楽しんだ。



直会の様子



少林寺拳法グループ 2026年新春行事

人と人が理解し合う社会を築く

1月19日、香川県多度津町にある金剛禅総本山少林寺において、少林寺拳法グループ新春行事が開催され、各地から1000名を超える拳士、関係者が参加し、2026年の始まりを祝った。

少林寺拳法グループ代表でもある宗昂馬少林寺拳法連盟会長による年頭挨拶では、「開祖がこの道を始めてから約80年を迎えようとしている。当時と現在とでは、日本の在り

方、環境など異なるが、昨今、国際情勢が大きく変わり、開祖が深く憂いていた「戦争」が、再び現実のものとして繰り返されようとしている。だからこそ我々は、少林寺拳法の教えを通じて、人と人とが理解し合う社会を築き、明るい将来に向けて取り組んでいかなければならない」と、力強く訴えた。

その後、新春修練会が、少年部（小学生以下）と一般部に分かれて行われ、希望した拳士が参加した。

少年部では、約170名の青少年女拳

士が参加し、飯野貴嗣指導員による基本、単演基本法形、資格別の相對演練など技術修練が行われ、大きな気合を響かせた。相對演練では、各地から参加した少年部の拳士同士が初顔合わせでありながら、元氣よく挨拶し、共に修練する姿が見られた。その他、講話も実施され、合掌礼など基本所作を通した少林寺拳法の教えを伝えた。

一般部では、川島一浩指導員により、単演基本法形、そして剛法、柔法の法形を基にした技の成立条件の確認から応用変化までの修練が行われた。参加者は休憩時間も惜しんで、技について指導陣に質問するなど、貴重な機会を存分に活かして修練に励んだ。一般部は約300名が参加し道場に入りきららないほどの盛況であった。

修練会の最後に川島指導員が、「今年も健康に留意して、少林寺拳法を楽しんで修練しましょう」と呼びかけた。

修練会の後は、境内で新春のつどいが開催された。京都府少林寺拳法振興会の中井敏雄会長より祝儀としていただいた樽酒たるさけのふるまい、多度津京極少林寺拳法太鼓の演奏の他、地元多度津町の伝統芸能である獅子舞が披露されるなど、華やかな雰囲気の中、皆で新年の幕開けを祝う場となった。

今年も天候にも恵まれ、終日華やかで盛況のうちに終了することができた。少林寺拳法連盟は、今年も引き続き「人づくりによる社会づくり」に邁進まいしんしていく所存である。

（文・写真Ⅱ 一般財団法人 少林寺拳法連盟）



新春のつどい（多度津町伝統芸能の獅子舞）



新春修練会・少年部



川島一浩指導員による指導（新春修練会・一般部）